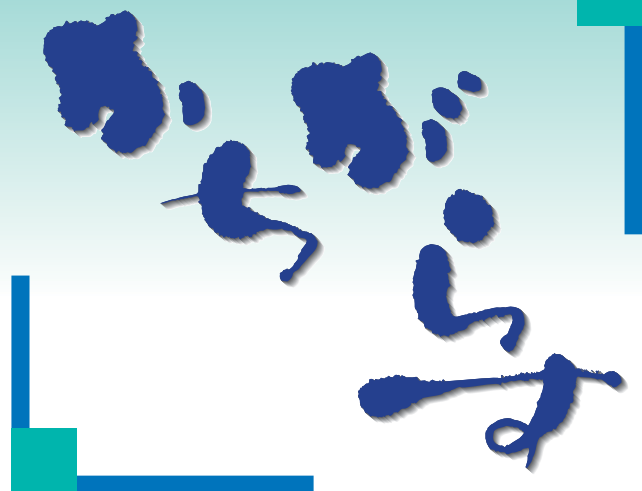


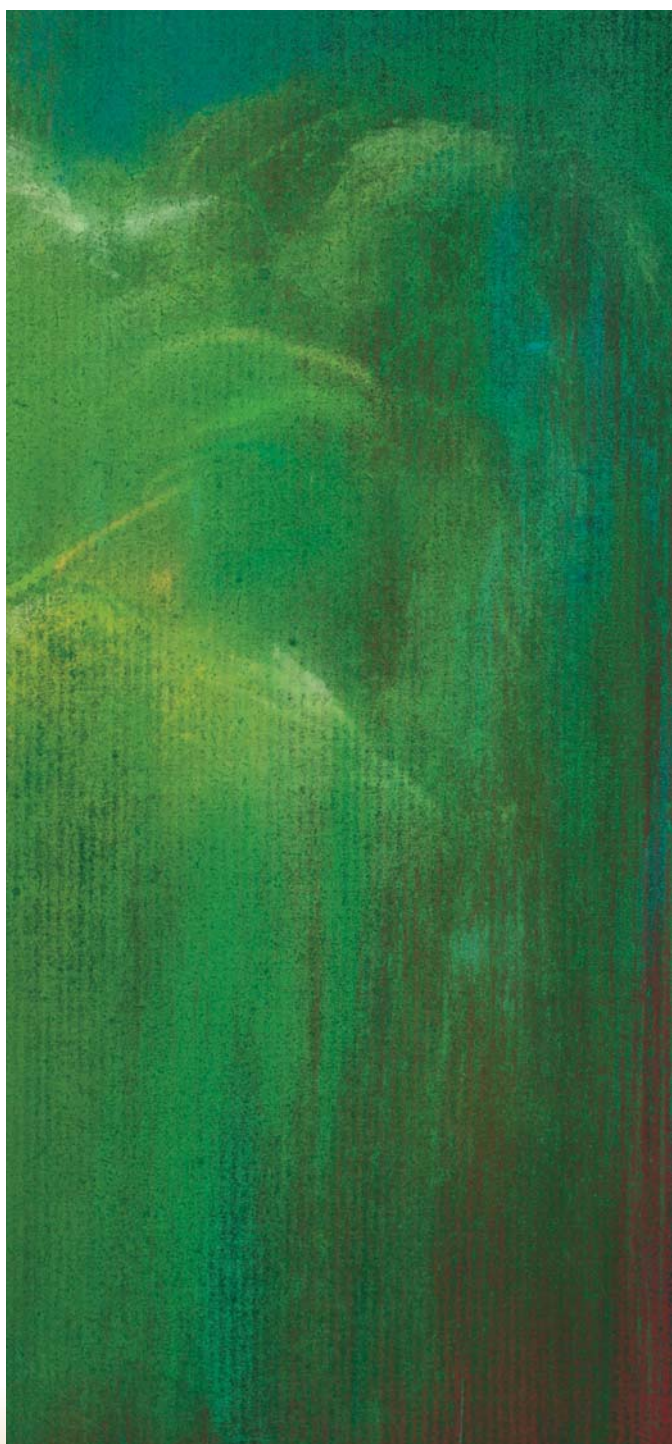
SAGA UNIVERSITY



佐賀大学広報誌 第3号 2005

ブレイクスルー

新たな地方大学の創造



知の創造



理工学部電気電子工学科
にしだ かずお
西田 和生さん

佐賀大学理工学部電気電子工学科3年在学。学生向け「佐大新聞」を編集・発行。平成16年12月から、佐賀大学外部アドバイザーに就任。

今回は、理工学部電気電子工学科3年の西田和生さんが学生の立場で長谷川学長へインタビューを行いました。佐賀大学のこと、授業や学生生活に関すること、また学長ご自身のことをいろいろ伺いました。進行は、早瀬広報室長が行いました。

① 地方大学の意義

早瀬 / 今日は、日頃思っていることを、どんどん学長にぶつけてみて下さい。

西田 / 広報誌「かちがらす」の第2号の中で、学長が「教育先導大学」ということを書かれていましたが、今までの教育と何が違うのですか？

学長 / 20世紀は科学技術が社会を引っ張ってきました。現在、私たちは科学技術に偏重した非常にバランスの崩れた社会に住んでいます。今の科学技術優先社会から脱却するとしたら、まず「教育」から始めることですね。社会の変革は必ず教育改革を要請します。21世紀を引っ張っていくのは教育ですよ。教育が社会を先導していく時代、大学はそれに相応しい教育と研究を展開する必要があります。「教育先導大学」は21世紀が求

めている大学像と思っています。僕は理工学部にいましたし、あなたも理工学部の学生だから分かると思いますが、これからの工学という学問をどのようにすすめていったらいいか非常に迷いますね。何か悪いことするかもしれない。世の中に便利なものを作り出すつもりでやっても、それが非常に悪い影響を与えるかもしれない。だから、工学って、何をやる学問なのかということ、原点に戻って考えなければならぬ。

西田 / そうしたら、その先導していく先というのは、研究者の良心とか、研究者のモラルとか、そういったことになってくるんですか？

学長 / そうだね。自分たちが何のために研究しているか、何のためにこんなことをやっているのか、もう一度問い直さなくちゃいけない。

西田 / これまではそういうことがなかったのでしょうか？

学長 / これまでもありましたが、忘れてしまっているのでしょうかね。僕



はやせ ひろのり
進行 / **早瀬 博範** 広報室長

広島大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学後、佐賀大学教育学部へ。平成14年に文化教育学部教授。平成16年4月から広報室長。学長特別補佐。専門は、アメリカ文学。

は核物理を専攻していましたが、指導教官から、「君は物理をなぜ勉強するのか、何で核物理をやるのか？」ということを問われました。そのときに答えに困りましたね。当時、原子爆弾の問題があったから「物理を勉強するのは一体何のためか」を自問自答することが非常に大事でした。だけど、その後何となくみんなそのことを忘れてきている。化学、医学の世界でも環境問題や遺伝子の組み換えとか、いろんな問題が起きてきていますね。科学の進歩が人間にとって幸せかどうか、人間だけじゃない自然にとって幸せかどうかというのは非常に重要なことです。もしかししたら、人間は何にもしないのがいいかもしれない。(笑)

西田 / そうなると、もう専門分野だけでなく幅広い勉強が必要となる訳ですね。

新たな地方大学の役割

はせがわ あきら
長谷川 照 学長

京都大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学後、佐賀大学工学部へ、昭和46年理学博士(京都大学)、平成7年に工学部教授。評議員、副学長、理工学部長を経て、平成15年10月1日、統合後の佐賀大学の初代学長に就任。専門は、原子核理論(物理学)。



学長 / そう。非常に幅広くものを考えなくてはいけない。今は哲学が必要なきです。君たち若い人に期待しています。社会の変化を見てみると、この100年は農業から工業への変化を続けてきました。工業は都市部に人手を必要とします。都市部にどんどん人が集まって、日本がもともと農業国であったという意識が少なくなる。少なくなっていくと共に文化の面の発展が非常に遅れてきました。文化というのは地域で創造されます。日本全体の文化なんてあり得ません。それぞれの地域、地方に文化が育って、それらが互いに独立して叫び声を上げて

いて、それらを他国の人が見ると、ああ日本はこういう文化を持った世界だなと思うのです。地方に人がいなくなって、多くの人が都会に行けば、都会だけが目立ってくる。地方の文化がどんどんなくなっていく。

農学部には農場があるのでしよう。今は附属資源循環フィールド科学教育研究センターというけど、今度、そこに行ってみたらいい。僕が行ったとき、びっくりしたのは「におい」ですよ。有機肥料でやっているから、ものすごい「におい」がする。一方、都会には「におい」がない。都会は、音と視覚、音の文化と見る文化がものすごく進んでいるけど、「におい」の文化というのは全くない。そういう「におい」の文化というものが、今は忘れられているのです。

ね。おもしろくないね。
早瀬 / 確かに田舎に行くと、田舎の「におい」がありますね。

学長 / そう。田舎の「におい」は、菓子の「におい」。そういったものが都会にはない。都会には、都会の「におい」があるかというところ、全くない。

早瀬 / そういう意味では、佐大の意義が出てくるわけですね。

学長 / そうそう。だから、地方大学というのは、今、社会の変革の中でものすごく重要なのです。そこで教育を、都会の子供はみんな地方で教育を受けなくてはならない。(笑)地方大学がいかに重要な教育をしなければならぬかということ。都会の教育はほとんどの学校も一緒。偏差値の区別しかない。地方と都市との区別は偏差値では測れない。それは文化が違うから。あつちには音と視覚の文化、こつちは「におい」の文化が中心になっている。



農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センターの実習風景

早瀬ノ 都会ってどこも一緒ですよ。ある意味、世界中一緒ですね。東京、ニューヨーク、ロンドン、一緒なんです。どこに行っても。その地方性とか、国民性とかを知るには、田舎に行かないとわからないですよ。

学長ノ 僕はきのう鹿児島島に行きました。新幹線でね。新幹線の発足と同時に鹿児島島の駅に新しいデパートができていました。そこに入ったら、博多と変わらないですよ、ブランド品ばかりで。その土地の「におい」が全くないわけですよ。地方でどんな教育をするか。文化教育学部の新富康央教授が地域貢献推進室でやっています。相知町の榎田（注1）とか、伊万里市のはちがめ（注2）とかやっています。最初は佐賀大学が地域の役に立ちたいという気持ちでやっていたんですが、そこでやっていると、むしろ、自分たちが学ぶことが多い。地方の新しい教育の芽がそこに育っていた。これからは、そういう地域そのものをカリキュラムに入れる試みをしようと、そういう教育を開発していくことが大事です。教育先導大学のひとつの例です。

（注1）相知町麻野集落における榎田の保全活動支援プロジェクト。佐賀県相知町の麻野、榎田百選選定地にて、佐大生が中心となって年間講座という援農組織をつくり、地域住民と協同して放棄された農地の復旧作業と、そこで付加価値の高い農産物を栽培するための有機農業・環境保全型農業の実践活動に取り組んでいる。

（注2）資源循環型社会を進める「はちがめエココミニティ」と「エコシカルな地球に優しい」コミュニティ（地域社会を作るためのネットワーク。生ごみから堆肥を作ったり、使用済みの天ぷら油から自動車の燃料を作ったりする地域の活動を、佐大の教職員・学生が伊万里市と協力して応援している）。

②佐大の国際化

西田ノ 今、佐大生の中でも留学を考えている学生がたくさんいるみたいなんです。そういった学生が実際に留学することになったときに大学としてのサポートがあるのであれば、紹介していただけないでしょうか。

早瀬ノ 経済面、それから学力、語学面ということですね。

学長ノ サポートの第一は、まずは組織的に語学センターなどを作って、そこで正規カリキュラムの中である程度しゃべれるようになる訓練をする。それが重要です。

西田ノ 例えば、語学にしても、今は、会話することを目的とした授業は少ない気がします。

学長ノ 会話は今まで大学では学問になっていないと考えていました。しかし、コミュニケーションを通じて初めて人々は世界的なものを見ることが出来る。世界にまたがってものを見るときコミュニケーションは非常に重要です。この意味で会話もある程度学問として取り上げないといけない。会話、会話とばかりにしちゃいけない。

早瀬ノ 会話というと学問ではないような感じですが、コミュニケーション能力、表現力なんですよ。それを英語でできるようにするには、教育は必ず要りますね。

学長ノ そう。しかも、英語でものを考えるのと、日本語でものを考えるのでは、人間が変わる。

西田ノ そうですよ。また、これ

からの学生は海外の方とコミュニケーションをとる機会も増えてくるでしょうから、必要な能力ですよ。

③学長の研究テーマ

西田ノ 実は一番これをお聞きしたかったのですが、学長の研究テーマについて教えてください。

学長ノ 僕は原子核理論を研究のテーマとしてきました。僕の育ったころはちょうど湯川秀樹先生や朝永振一郎先生のノーベル賞で沸き立っていて、素粒子とか原子核とかはみんなが憧れていたものです。ですから、そういう意味では非常にミーちゃん、ハーちゃんの、その分野を何となく選びました。

早瀬ノ 学問にも流行がありますね。

学長ノ そうそう。そして、始めたら沢山いる、優秀な人が。人間の能力ってすごいですね。僕が、百遍読んでやっとなら理解するのを一遍読んで理解する人がいる。湯川先生は何をやったかという、原子核を構成している核子（陽子とか中性子）の間に働く力のメカニズムを解明したのですが、広く言えば「力」はどうやって生まれてくるかを考えたのです。例えば、万有引力というのは物体の間に働く力だけ、実は、それぞれの物体から「中間子」という粒子が出たり入ったりして

との ケーション



いる。二つ物体が近づくと物体の間でそれぞれの出していた中間子を交換する。そのときに物体の間に万有引力が働く、そういう理論を考えただのです。だから、君と僕の間には引力が本当は働いているけど、引力がものすごく弱いからほとんど感じない。僕の一部が君の方に飛んでいる。君の方も僕に飛んでいる。だから、僕と君の間の区別はないことになりましたね。

もう少し詳しく言うと、例えば電子を考えましょう。電子を一個置くでしよう。で、もう一つ電子を置くと、電子の間に斥力が働きます。

西田 / はい。

学長 / 二つの電子を置いたとき電子の間に斥力があることを気付きます。一個置いたときは何も変化して見えないでしよう。ところが実は空間に何かが存在し始める。電子を置いた途端にその存在は光の速度で周辺に広がっていく。この存在を電場といって「波」によって記述することが出来ます。二つの電子のそれぞれから発生した電場が互いに重なったとき電子の間に斥力が働きます。だから、斥力を感じるには時間がかかっているわけで瞬間的ではありません。ところで、場は波で記述されると言いましたが、電子のようなミクロな世界では、「波」の記述と「粒子」の記述の間にある特定の関係が見出されて電子（粒子）も場（波）

世界の人々 コミュニ



も「量子」として同じように記述される量子論が発展してきました。湯川先生の中間子論はこのあたりにヒントを得たものと理解しています。君は理工学部で電気電子工学科の学生だから聞いていますよね。知らない、おかしいな。（笑）

早瀬 / かなり専門的な話になりましたね。もう一回、学び直すというこ

④学長の趣味・興味

西田 / 好きな本、または映画はありますか？

学長 / 好きな本と映画。最近の本

というより新聞ですね。新聞がおもしろいですよ。社会は日々変化するから新聞読むのと物理やるのとは一緒。物理の数式を知らなくても新聞を読んでいろんなことを考えるでしょ。これは、物理やっているのと変わらない。現象があるでしょう、たくさん。一つの現象に注目して、その現象が毎日どう変化しているかを見る。そうすると、そこに何らかの一つの筋書きを自分で考える、それが物理です。

早瀬 / 映画は行かれますか？

学長 / 映画は好きですよ。最近アクション物になってきてね。渡辺照男理事と一緒にね、テレビ見ると時代劇専門。（笑）

早瀬 / そうですか。一番最近で、何

か観にいかれた映画とがございませうか。学長 / 一番最近のは、何と言ったかな。監督がチャン・イーモウ（張藝謀）あつそうそう、「英雄（HERO）」とかね。その後もう一本あつた。

早瀬 / ありましたね。「LOVER S」ですね。画面がきれいですよね。

学長 / そう、画面がきれい。

早瀬 / 色使いがとてもいいですね。

学長 / 日本人の衣装担当者がやっているそうですね。チャン・イーモウ監督の映画、なかなかおもしろいし画像技術の奥が深いような気がします。今、韓国のドラマも流行しているようですね。

西田 / 学長の「英雄（HERO）」のご感想は？

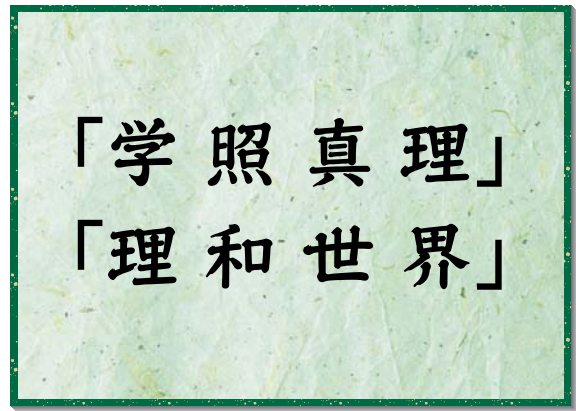
学長 / 昔は映画というのは筋とかそういうものを非常に気にしてたんですね。でも今は筋よりも非常にビジュアル優先ですね。視覚を楽しませるとか、音を楽しませるとかね。音楽もすごいしね。音もね、都会的だね。だが、「におい」がない。本当は「におい」を出すのが一番いいと思う。

西田 / 少し残念ですか、今の映画は？

学長 / 「におい」を出したら、これは大変な発明だと。音と色は非常にいい。もうきりぎりまで来たのじゃないかな、音とか色は。



学長室には、外国の大学から多くの来訪者がある。



⑤ 座右の銘

西田 / 学長の座右の銘を教えてください。

学長 / 座右の銘は、今年には自分で考えたのがあって、この1年間は、「学照真理」。「学」は、真の理(ことわり)を照らすという意味です。もうひとつ、「理和世界」。「理(ことわり)」は世界を平和にするという意味です。「照は僕で「和」は女房の和子ですよ。この間、台湾の大学の先生が来学された時自分たちの名前を入れて詩を作ったのを真似てみたんだよ。

⑥ 「知恵を磨く」

西田 / 学長から見て佐大生はどういう学生に見えるか、また、佐大生に求める資質について教えてください。学長の学生時代を踏まえてお話しください。

学長 / 学生時代ね。

西田 / はい。また、今学長が佐大生だったとしたら、どういうふうに通じられるか話をしていただけたらと思います。

学長 / 僕の学生時代は、今のようにな、光速メディアを通じていろんな情報をリアル・タイムで得る事はなく、間接的に、あるいは時刻遅れでしか世界を知ることが出来ませんでした。それと、今の人には考えられないでしょ

うが、冷戦というソ連とアメリカを中心とした二極時代がずっと続いていました。これは大きな障壁で、どの国の人も世界の半分しか理解出来ない。そういう状況の中で、日本は国内の急激な経済復興を背景にだんだんと世界に踏み出していく、そういう成長過程にありましたね。今と違って、あまり後ろを振り向く時代ではなかったような気がします。常に前を向いて、前を向いてという、追い立てられていたような感じがしますね。

早瀬 / 60年代ですね。

学長 / 僕は安保のときが学生時代の最初のときです。

早瀬 / 今から見ると、激動の時代ですね。

学長 / 今から見たら激動なんだけど、アメリカを中心とする資本主義とソ連を中心とする共産主義の対立のメカニズムのもとで動く非常に単純化した激動であったように思う。

早瀬 / 敵がはつきりしていたわけですね。

学長 / はつきりしている。あんまり頭を働かせなくても済むような。そこへいくと、今は非常に大きな変革の時代、本質的な変革の時代だね。だからこそ、僕の学生時代と比べると非常に面白い時代のような気がしますね。今は、十分いるんなことがやれる時代です。自分の思うところの人生だって歩けるかもしれないぐらいの時

代だね。昔は決まっている。いい大学出て、いいところに就職して、それでおしまいと言う風潮。今はそんな時代じゃない。だから、佐大生、今は最も自由に考えられるんじゃないですかね。制約がだんだんなくなっていると思う。ただ、問題は皆さんが時代に相応しい国際人になれるかどうか。国際的な活動ができるということは、平和とながるからね。平和でなくなると、国際的な働きができなくなる。だから、今はそういう知恵を養う知の時代なのです。けれども、どういうわけか今まで知を創造している人は実社会で大切にされていませんでした。今後は、知という知恵というかそういう論理構造がはつきりしないと物事が動かなくなるよ。君たちに大事なものは、知恵を磨くことですね。

早瀬 / 大学で、そういう教育までしなきゃいけないわけですね。

学長 / 教育しなきゃいけない。ものすごく教育しないとけない。

西田 / はい。とても参考になりました。本日はどうもありがとうございました。

早瀬 / 今日、佐大の意義や教育の重要性についての学長のお考えや、学長の素顔もかなりお聞きでき、とても有意義でした。学長と学生がカジュアルに話せる機会をもっと作りたいですね。今日は、どうもありがとうございました。

佐大生に望むこと

理事(労務担当)

平山 泰士郎



平成16年4月に非常勤理事として就任しました。本業は弁護士ですので、大学の内情には全く疎いのですが、それだけに、かえって新鮮な立場でものが見えると期待されているのだろうと思います。

それぞれの大学が教育面でも研究面でも、個性を發揮しなければならぬ厳しいご時世ですが、それはそれとして、大学運営の基本課題は社会にとつて有為な人材を育成して輩出させることだと思えます。問題は、有為な人材というのをどうイメージするかということですが、最近になって私がつらつら思うことは、チーム(会社などを含めた社会的団体一般のこと)の一員になってチームの目標達成に貢献する行動能力の大切さです。その場合、他のチームや社会全体との調和を図る能力も大切でしょうが、チームの活動が社会的に是認されるのである限り、その活動にチームの一員として参加して貢献するというのは、人間としての社会性という点で立派なことだと思えます。その意味で、学生の皆さんが、知的レ

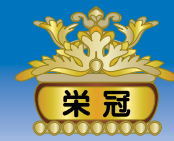
ベルアップに向けた日々の努力に加え、部活や大学祭に積極的に参加することは大いに意義のあることだと思えます。

ところで、社会全体をひとつのチームとみなすことができると思いますが、最近では、社会の歯車になることを自覚的に拒否しようとする若者が多いように聞き及びます。朝から夜まで仕事づくめで人生の意味を考える余裕もないという生活は確かにかかしのようです。が、他方、社会の歯車になって始めて、自分の存在意義が自覚できるというのも真理です。就職の厳しい時期がまだまだ続きそうですが、学生の皆さんは、間違ってもフリーターの生活に憧れることのないようにお願いします。話は変わりますが、弁護士の仕事をしている、小学校から大学までの長い教育期間内に、もう少し法律的な実学教育があつてよいのではないかと思うことがあります。ひとつは利息制限法のこと、年20パーセント超の利息を約束して払い続けても、超過利息は元本返済に充てて計算し直しできることになっています。大卒の人たち自身



が多重債務に陥るケースはさすがに少ないのですが、高利で借金した身内の尻ぬぐいをしてあげる時などには必須の知識となります。また、交通事故の損害賠償金の基準は複数あり、保険会社が提示する金額は、低めに抑えられていることが多いので、とくに死亡事故などの重大事故の場合は弁護士会などの第三者にチェックしてもらおう方がいいと思います。遺言書を実際につくる方法も知っておいた方がいいでしょう。社会に出ると本当に色々なことを経験させられますが、本学の皆さんが一步一歩たくましく成長されることを期待します。





「ネット授業」が 現代GPに採択

佐賀大学が応募した「ネット授業の展開」が、文部科学省の平成16年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(通称「現代GP(Good Practice))」(注)に採択されました。現代GPの「ITを活用した実践的遠隔教育(e-Learning)」の分野には、全国の国公立大学や短大・高専から108件の応募があり、うち15件が採択されました。採択率14%弱の難関でした。

“e-Learning”とは、講義の映像・音声とプレゼンテーションソフトで作った教材をサーバに蓄えておき、受講者がインターネットを介して受講できるようにしたものです。ICT(情報通信技術)を用いた新しい授業方法で、世界中で注目されています。受講生は何時でも何処でもそして何度でも聴講でき、理解を深めることができます。

佐賀大学のネット授業は、平成14年度から、国立大学で始めて正式科目として開講しています。平成14年度前学期の1科目開講から始めて、現在は4科目の教養教育科目を開講しています。平成14年度と15年度の2年間で、単位を取得した学生諸君は延べ433名になりました。誰でも何時でも何処からでも聴講できるというe-Learningの特徴を生かして佐賀大学のネット授業は、市民の皆様にも生涯学習の一環として公開して来ましたが、これまでに1,000名を超える方々に聴講して頂いています。

平成17年度に向けて、現在新たな科目として「佐賀学」、「ディベートの分析と評価」、「基礎簿記」、「わかりやすい機構学」、「知的財産学」そして大学院の科目として「シンクロトロン光応用光学特論」と「超短波長光利用科学工学特論」の開講準備に取り組んでいます。また、強力な授業支援機構を持った新しい学習管理システムの開発にも取り組んでいます。組織的にも、これまでは教養教育運営機構の中の一つの委員会がネット授業を支えてきましたが、今回の採択を機に学長を始めとする全学的な取組になります。

今後は、開講科目も増やしていきますが、内容の面でもネット授業の教育効果を上げたいと考えています。特に対面授業とネット授業を組み合わせるBlended Learningに取り組みたいですと思っています。大学教育の新しい形を示すことができると思います。

(注)「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP(Good Practice))」.....

文部科学省が、各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学等から申請された取組の中から、特に優れた教育プロジェクト(取組)を選定し、財政支援を行うことで、高等教育の更なる活性化が促進されることを目的とする。募集の対象は、地域活性化への貢献 知的財産関連教育の推進 仕事で英語が使える日本人の育成 他大学との統合・連携による教育機能の強化 人材交流による産学連携教育 ITを活用した実践的遠隔教育(e-Learning)の6テーマである。

理工学部知能情報システム学科教授
佐賀大学ネット授業実施委員会委員長

近藤弘樹

高校生のためのキャンパス通信

～高校生と佐賀大学を結ぶ高大連携ネットワーク～



大学説明会に参加した高校生達

佐賀大学は、平成15年3月に佐賀県教育委員会との間で「高大連携事業に関する協定」を締結し、相互に連携しながら、高校生と大学生を対象とした事業（高大連携事業）を実施しています。

例えば、佐賀大学におけるオープンキャンパス（大学説明会）や出張授業の実施などは従来から続けている事業ですが、これに加えて、平成16年12月20日から、「高校生のためのキャンパス通信」と題して、大学の情報をホームページを利用して、高校生及びその保護者の方々へ配信しています。内容としては、ニュースレターや質問コーナーを設ける外に、佐賀大学等における「講義の聴講」が可能になっています。高校生がこのネット上での講義を聴講することにより、大学進学に対するモチベーションを高めることを期待しています。

また、佐賀大学としては、高校生が受講した講義を入学後に単位として認定する方向で今後検討していきたいと考えています。



高大連携
高校生のためのキャンパス通信
(高校生と佐賀大学を結ぶ高大連携ネットワーク)

入試案内 ● 講義聴講 ● 活動内容 ● 質問・お問合せ ● ホーム

最新情報
[2004/12/13]
☆高大連携ホームページの開設
★ 申請受付:12月20日(月)開始
[2004/12/04]
☆オープンキャンパス2004の特別企画の模様を動画で公開中

ニュースレター
選択して下さい。 見る

購読申込みはこちら

購読するにはAdobe Readerが必要です

★佐賀大学と佐賀県教育委員会との
高大連携事業に関する協定書

学務部入試課
Tel: 0952-28-8178
Fax: 0952-28-8170
E-Mail: nyushi@cc.saga-u.ac.jp

◎佐賀大学公式ホームページへ
◎佐賀大学入試情報
◎e-Learning Studio

ROAD to DREAM
佐賀大学入学案内ムービー

ニュースレターの購読申し込み方法

佐賀大学ホームページ(<http://www.saga-u.ac.jp/>)から、キャンパス通信「高校生のためのキャンパス通信」をクリックすると上の画面が出てきます。ニュースレターの購読申込みは[こちら](#)をクリックして申し込みをしてください。



「血管不全」を冠した日本初の講座

医学部 血管不全学講座



医学部血管不全学講座 加藤徹助教授（ミュンヘン自然療法病院にて）

医学部血管不全学講座は、「血管不全」を講座名に冠した日本で初めての講座です。我々は血管の機能を(1)内皮機能 (2)平滑筋機能 (3)代謝機能の3つに分け、1つでも障害を受けた状態を「血管不全」と提唱しています。冠動脈、脳血管、頸動脈、大動脈、末梢動脈、眼底血管などあらゆる血管が研究対象になりえます。「血管不全」の標準的診断法の確立が急務ですが、「血管不全」という新座標軸を取り入れることにより、多くの疾患の病態解明、治療効果判定につながると信じています。

加藤徹助教授は、東京医科歯科大学医学部循環制御内科学より赴任し、生活習慣病の観点から血管不全を改善して、心血管イベントを減少させるという目標をもって臨床研究を行っています。明石真講師は、大阪バイオサイエンス研究所より赴任し、体内時計の分子メカニズムの研究を行っています。

血管不全学講座では、特に“生活習慣病”に重点を置いた研究を目指します。糖尿病、高脂血症などの生活習慣が心血管イベントのリスクファクター（危険因子）であることはよく知られていますが、その前段階の食後高血糖についての研究はいま始まったばかりです。時代とともに変遷し、新しく生まれてくる危険因子を、いかにしてとらえて治療介入してゆくかが大きな課題です。危険因子には人種差があり、性差があり、地域差があります。救急医療や冠動脈インターベンションとよばれる治療は、近年長足の進歩を遂げましたが、これらは日本人の3大死因の一つである心臓病治療の“必要条件”ではあっても、残念ながら“十分条件”ではありません。急性期治療とともに危険因子への治療介入という慢性期治療や予防医学も心臓病治療の大きな軸になると思います。九州には久山町研究に

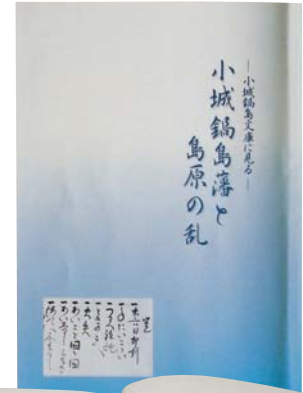
代表されるような生活習慣病の疫学調査・コホート研究の素地があります。佐賀大学発の臨床研究・疫学研究・コホート研究によって、佐賀大学発の日本人のエビデンス作りに参加できれば光栄です。



小城鍋島文庫を活用して 「島原の乱」に光を当てる

経済学部国際経済社会 教授
文系基礎学研究プロジェクト代表
宮 島 敬 一

「文系基礎学研究プロジェクト」の発足とその成果について



本プロジェクトは、学長裁量による大学改革推進経費を受けて設けられた。本学文系分野における情報発信を豊かなものにするために、1) 学内文系の総合的多角的共同研究体制の構築、2) 本学附属図書館の小城鍋島文庫^注・市場直次郎コレクションを中心にした既存資料の有効活用・価値の再発見、3) 県内の資料の調査・収集・研究の推進、また、4) 県下の研究機関・研究者との連携による地域社会の要請に応じたテーマの設定や共同調査などを行い、これをもとに地域社会に学術情報をわかりやすく提示することを目指している。

メンバーは、宮島敬一(代表)、長安六、山本長次、猪飼周平、石川亮太、品川優(以上経済学部)、井上敏幸、佐田茂、松尾正幸、生馬寛信、宮島敦子、飯塚一幸(以上文化教育学部)の12名である。

本年度は、1) 本学附属図書館と小城町教育委員会との地域文化交流事業による特別展「小城鍋島文庫に見る - 島原の乱と小城鍋島文庫」(期間 平成16年8月10日から9月19日 会場 小城町立歴史資料館企画展示室)の企画立案

2) 諸講演 a) 「小城鍋島藩と島原の乱」(講師・宮島敬一) b) 「古墳時代の佐賀」(同・佐田茂) c) 「原城跡出土のキリシタン遺物」(同・松本慎二・有馬町教育委員会) d) 「戦国時代を生き抜いた武将たち 田尻・鶴田氏の激動の100年」(同・宮島敦子)を8月21日(土)～9月11日(日)にかけて、小城町立歴史資料館研修室でおこなった。

さらに、3) 図版資料集『小城鍋島文庫に見る小城鍋島藩と島原の乱』(A 四版全120頁)を作成刊行した。その構成は、島原御陣図・鍋島若狭守他連署起請文などのカラー図版12頁、小城鍋島文庫有馬陣関係文書の単色図版17頁、論説「島原の乱と佐賀藩」、論考4編、そして『元茂公御年譜』など史料翻刻50頁などからなる(なお、入手希望の方は附属図書館にご連絡(0952-28-8902)ください)。

そして、現在、次の企画活動が進んでいる。a) 『小城鍋島文庫・近代目録』の刊行、b) 市場直次郎コレクションの整理・目録作成、c) 展示(「島原の乱と小城鍋島文庫」)を生かした小・中・高校教員との連携による指導案作成、d) 考古学のデータベース化、e) 「文系基礎学研究」ホームページの設置などである。

以上のごとく、多彩で豊かな企画活動をしてきたが、来年度もさらに本学文系分野における地域社会への情報発信を確かなものにしてゆきたい。

(注)小城鍋島文庫.....
小城鍋島藩(7万3千石)が収集した和漢洋の書物と藩の行政史料の総体で、総数は一万点を越え、藩政史・文学・思想・科学史など多くの分野に渡る貴重な史料群(コレクション)である。中国元や明で印刷された漢籍や日本の古活字本の文学書、また幕末の科学書、さらに藩法や藩の日記・帳簿類・古文書などがある。

Bangladesh の 地下水砒素汚染に挑む

農学部 環境社会学 教授
稲岡 司

Bangladesh は、東のミャンマー(旧ビルマ)、西と北のインドに挟まれる南アジアのイスラム国である。ガンジス川など3つの大河の下流に土石が堆積して出来た肥沃な平野に、2004年現在、1億4千万人以上のベンガル人(人口:世界第8位)が1平方キロあたり約千人という超過密な状況(人口密度:世界第1位)で住んでいる。国の主産業が農業であるため、繰り返し起こる干ばつや洪水により、国の経済基盤は非常に不安定で、世界の最貧国の一つとなっている。

加えて Bangladesh では、現在、国の総人口の約30%が、「危険水準(50ppb)」以上の濃度の砒素に汚染された井戸水を飲んでいると報告されている。この砒素汚染の原因は自然由来の堆積層の中に存在する砒素であることが判明したが、これを飲用することによる健康被害(初期の皮膚障害から各内臓器官の障害へ、最終的には皮膚癌など)は、予測不能ほど甚大だと推測されている。1993年に国内で最初の砒素患者が確認されてから、すでに10年以上が経過し、世界機関やNGOなどが国と協力して砒素汚染対策にあたっているものの、功を奏しているとは言い難い。

私は、出身である東京大学国際保健人類生態学教室や、 Bangladesh 国立研究機関との共同研究を1998年より開始し、現在に至っている。我々の研究を含め、砒素汚染対策は以下のように5つにまとめられる。砒素による健康障害の発生のメカニズム 砒素患者の治療

地下水砒素汚染の水理学的メカニズム 安全な水を提供するための砒素除去技術の開発 井戸水以外の代替水源の模索、などである。

砒素患者に対する治療法が存在しない現在、最も緊急なのはいかにして安全な水を多くの人々に提供するか(上の)であるが、では、井戸水の砒素をフィルターなどで除去するのは技術的に可能だが、裕福ではない世帯ではそのコストを負担しがたく、また、除いた砒素の最終処分に問題が残る。

に関しては、上水道の設置が困難な状況では、簡易代替水源として雨水や表層水(池や堀井戸)を利用すれば良いと考えられるが、これには皮肉な歴史がある。すなわち、約30年前から下痢症などの腸管感染症の発生を抑えるため、ユニセフなどを中心として飲料水を表層水から地下水へと転換してきた経緯があるので、多くの人々には「もう一度昔に戻る」ことに抵抗感や不安感を禁じ得ないのである。

このように多くの問題を抱える Bangladesh の地下水砒素汚染だが、少し別の見方をすると、基本的に自然災害であるため全ての人々に「平等」なはずなのに、人間社会という濾過装置を通ったとたんに「人的・社会的災害」の要素が加わり、砒素による健康障害が貧しく無知な弱者に蓄積するようになるのである。



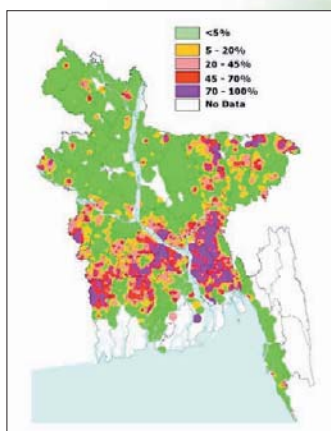
井戸水を飲む男の子



Bangladesh の子供達



重症の砒素中毒患者の掌



井戸水の砒素濃度が基準値(50ppb)を越えている割合

どんだんどの森の北側に公衆トイレがあるのをご存知ですか。1995年に鉄筋コンクリートで造られ、正面にはショーウィンドーを配し、芸術家にギャラリーとして開放して市民に親しまれていました。

同ギャラリーを管理している佐賀市環境課は、初めは国内外の芸術家が制作した作品を展示していましたが、創設当時と比べて、市内にギャラリーが増えたこと 財政難の為それまで措置されていた40万円の年間予算を削減したいことなどを理由に見直しを行いました。

2002年の9月には「ポスター掲示」に方向転換しようとしたのですが、芸術家や一般市民より、存続を望む声が強かったので取りやめになりました。

同課は2003年度に、学生の創作活動の場として活用しようと決め、年間運営費として30万円をあてることになりました。

そこで、佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程の学生に相談があり、同年4月に第一弾として、洋画や彫刻など5人の作品を集めて展示しました。

その後は学生リーダーを中心に希望者を募り、1年間のスケジュールに沿って運営をしています。今までには西洋画を中心に、染織、窯芸、彫刻、木工、デザインなどの作品が並びました。又、個人で企画して全てを一人でやる者や、仲の良い友人二人で開いたり、学年のグループで開いたり、色々なケースが出てきました。

公募展のような審査や、作品の大きさ・材質などの制約がなく、のびのびと制作して、発表出来る場が生まれました。ただショーウィンドーの奥行きが狭く大作が入らずに苦心したり、南向きなので中は高温になり、作品が傷み日本画は展示出来ない事などの不満もあります。

表現をする者にとって、人に見てもらえることは大変な喜びです。トイレに用事がある人、通りすがりに見る人、中にはわざわざ見に来られる方もあるそうです。

普通の画廊であれば鑑賞者との対話ができ、作品の批評をしてもらえますが、ここでは作品の反響を知ることが出来ないのが残念です。一方、環境課には、時々電話などで市民の方からのご意見やご感想が寄せられるそうです。

トイレギャラリーに学生が展示を初めて2年近くになります。運営の仕方や作品の展示方法などのノウハウを知り、現在はスムーズに運営を行っています。

美術は美術館や個展会場など、室内で特定の美術愛好者の方に見られることが多いのですが、日常生活の中で美術が生かされる空間があることは、望ましいことと思います。

今年度も美術・工芸課程の学生は、中央展で入選や受賞をしましたし、地方展では多数の受賞者を出し活躍しています。トイレギャラリーの活動を通して、今までの枠からはみ出して、もっと大きく成長して欲しいと思います。

トイレギャラリーに作品提供

美術・工芸課程の学生

文化教育学部
美術・工芸教授
上 瀧 泰 嗣



塩月悠氏（教育学研究科修士課程1年）によるユニークな企画展示

オープンキャンパス開催

佐賀大学では、11月20日(土)、オープンキャンパスを開催し、近郊の小中高校生や地域住民が多数訪れました。

今年は、「地域と大学」をテーマに、学園祭と連携・協力して開催し、700人を越す来学者で賑わいました。特別企画「現代版『知のシルクロード』佐賀を語る～佐賀大学と伊万里市との相互発信～」は、



自国の自慢料理を振舞う留学生たち



白熱したフォーラムの様子

「地域と大学」のテーマに沿ったフォーラムであり、パネリストからは、地域に根ざした佐賀大学に寄せる熱い想いと期待が語られました。

他にも、各学部・図書館でのパネル展示、実演会、留学生による自国の料理の試食会及び文化紹介等さまざまな催しを学内随所で行い、学外者に開かれた大学としての佐賀大学を大いにアピールすることができました。



好評だったポスター



実験に見入る子供

国立大学法人 佐賀大学東京オフィス

佐賀大学では、東京との産学官連携、地域連携、入試・就職活動の拠点として、佐賀大学東京オフィスを平成16年10月29日から開設しています。企業及び学校関係の皆様は、お気軽にお立ち寄りください。

住所 : 〒108-0023
東京都港区芝浦3-3-6
キャンパスイノベーションセンター613号室

電話・FAX : 03-5440-9079

佐賀大学内のお問い合わせ先

佐賀大学学術研究協力部国際研究協力課
電話 : 0952-28-8403



東京オフィスの看板を掲げる長谷川学長(左)と古賀理事



佐賀大学学歌

作詞 保岡 直樹

空へはばたく カササギの
 羽は希望の 学章なり
 研鑽躍進 意気高く
 志は世界の 懸け橋に
 あ、佐賀大学に 誇りあれ

恵み豊かな 有明に
 拓く 沃野の 佐賀平野
 この地を要と 楠の葉に
 歴史と文化の 風薫る
 あ、佐賀大学に 栄えあれ

夢を語らう 学び舎に
 燦めく青春 友の顔
 結ぶ絆は 永遠に
 明日の時代を きり開く
 あ、佐賀大学に 未来あり

—学歌(歌詞)制定の経緯—

平成15年10月1日の佐賀大学と佐賀医科大学の統合により、「新生佐賀大学学歌」として歌詞を公募しました。その結果、116件の応募があり、その中から、東京都在住の保岡直樹氏の作品が選ばれ、平成16年10月1日の統合1周年記念式典で披露されました。

なお、曲については、文化教育学部の橋本正昭助教授が作曲し、平成16年度佐賀大学学位記授与式において披露されることになっています。

広報室外部アドバイザー委嘱

佐賀大学広報室では、平成16年12月より、地元自治会・同窓会・学生に加えて、各界でご活躍の方々を外部アドバイザーとして選出・委嘱し、大学広報に関する各界の意見を取り入れて行くようにしました。メンバーは、次の方々です。(敬称略)

佐賀市本庄校区自治会長 会長	光石 隆 則	プロデューサー	永松 慧 一
佐賀市立本庄公民館館長	角田 研 三	フォトジャーナリスト	大塚 清 吾
㈱佐賀IDC代表取締役社長	浅川 達 夫	映画評論家	西村 雄 一郎
佐賀経済同友会事務局次長	福母 祐 二	佐賀大学理工学部3年生	西田 和 生
佐賀リコー㈱代表取締役社長	矢野 洋 志	佐賀大学医学部4年生	齊 郷 智恵美
㈱宣伝会議九州本館顧問	古川 静 男		

編集後記

広報室も、右記の通り「外部アドバイザー」を迎え、組織作りは一段落しました。その後は、オープン・キャンパスの実施、ホームページの一新、ウェブによる「学内報」と「メールマガジン」の発信開始と、次々と新たな企画に挑戦しています。国立大学の広報も、学内の情報を流すだけの窓口でなく、広報戦略をもち独自の企画を打たなければならぬ時代になっています。「学内報」と「メールマガジン」は、佐賀大学広報室ホームページで公開しています。学内の様子リアルタイムでわかります。是非アクセスしてみてください。

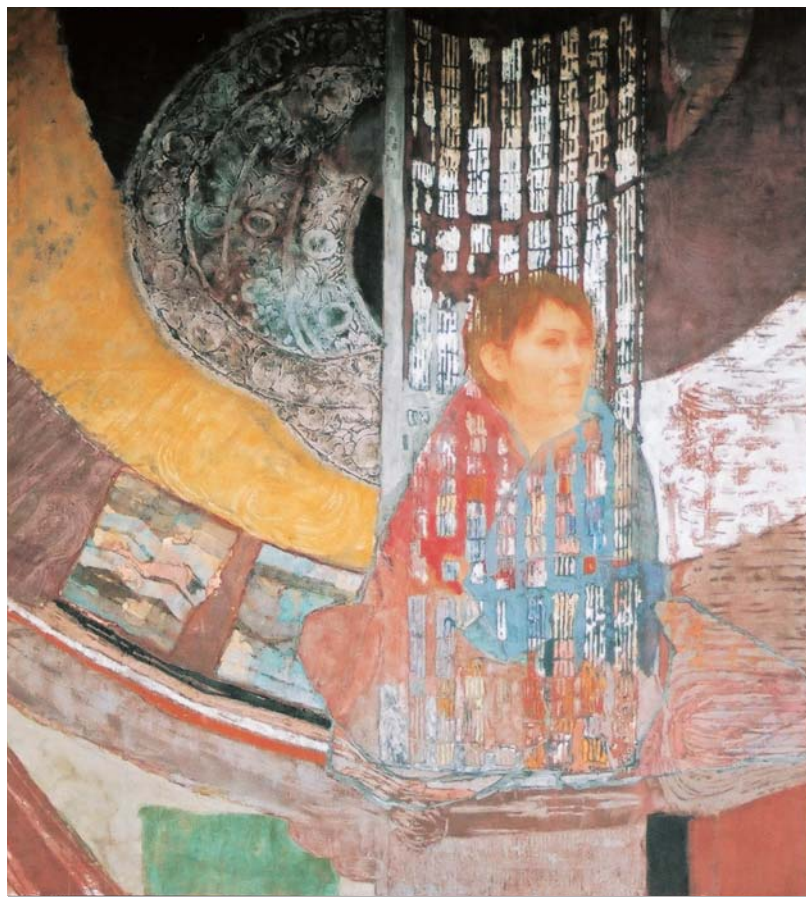
(広報室長 早瀬 博範)

【表紙画制作者】 文化教育学 教科教育 助教授 栗山 裕至



作品名 「おもて」

はちや まゆみ
八谷 真弓 (文化教育学部美術・工芸課程4年)



【作者プロフィール】

1982年佐賀県神埼郡神埼町生まれ。
現在、文化教育学部美術・工芸課程
4年次在籍。日本画専攻。日本美術
院展（通称「院展」）、佐賀県美術
展、佐賀美術協会展、その他公募展
等に出品し、入選・受賞多数。

【作者コメント】

人物をテーマにした日本画の制作を
しています。基本的には、描きたい
ものを好きな色で表現します。失敗
も多いですが、そこから学ぶことも
多いのでやりがいがあります。